

## 松姫の悲劇

徳川家康（1543-1616）には、異母姉の松姫（1563-1587）と結婚してくれる人が見つからないという悩みがあった。松姫はひどく不細工で、将軍が義理の兄になるということですら、求婚者を引きつけるには十分ではなかった。家康は全国の大名を招集し、「妹を妻として男の子を生んだ者には、10万石の領土を与える」と宣言した。

いくら大名といえども10万石は魅力的な条件であったが、どの大名もすぐにその提案を受け入れようとはしなかった。ただ一人、戸田康長（1562-1633）だけは、松姫に恥ずかしそうに微笑んだ。それを見て、家康は即座に婚約を宣言した。戸田康長は後に松本城の5代目城主となる。

この話は、松姫の醜さを強調するものだが、実は松姫の死後、長い年月をかけて作られた空想上の噂である。松姫はまだ5歳で、6歳の康長と婚約した。松姫は美しく成長し、永兼（1580-1619）という男児をもうけたと記録されている。

しかし、残念なことに松姫は若くして亡くなり、松姫の息子も病弱であった。康長の側室は、その後2人の息子を産んだ。忠光（1598-1629）、康直（1617-1634）である。1617年、一族は上野（現在の群馬県）から松本に移り、康長は松本城を支配するようになった。永兼は間もなく死去。1629年、忠光も若くして没すると、康長は家督を継いだ。

忠光の死後、戸田家には多くの不幸があった。この不幸と忠光の死は、跡継ぎの座を譲り受けられなかった永兼の怨霊の仕業ではないかと康直は考えた。またある者は、その原因を松姫（まつひめ）の怨霊（おんりょう）にあると囁いた。松姫は溺死した、松姫は醜い女で不幸な結婚をした、などという残酷な話も聞かれた。

結局、松姫と永兼の霊は松本神社に祀られている。